

# ソーシャルワーク専門職である 社会福祉士に求められる役割等について

## 論点

「包括的な相談支援体制」を構築・維持するためのソーシャルワーク機能を社会福祉士が発揮するために、具体的にどのような実践能力が必要となるか。

## 論点に対する考え方

- 高齢分野や障害分野、生活困窮者自立支援制度、「我が事・丸ごと」の地域づくり等、様々なところで言及されている「包括的な相談支援体制」を構築・維持していくにあたっては、個人や世帯にとどまらず、地域全体をアセスメントすることによって新たなニーズや地域課題を発見し、課題解決に向けて社会資源の調整や開発並びに地域づくりを行うといった機能が必要となる。それらの機能に関する職務を効果的に遂行するためには、一定の価値・知識・技術が必要となる。
- 社会福祉士の養成カリキュラムは、「総合的かつ包括的な相談援助の理念に関する知識と方法」、「地域福祉の基盤整備と開発に関する知識と技術」、「実習・演習」及び「サービスに関する知識」から構成されており、ソーシャルワークの基本的な展開過程（ケース発見、受理面接、スクリーニング、アセスメント、支援計画の策定、支援の実施、モニタリング、効果測定、終結、アフターケア）及び社会資源の開発に関する知識及び技術を理解し、修得するものとなっている。
- また、地域力強化検討会中間とりまとめにおいては、「「我が事・丸ごと」を実現するためには、制度横断的な知識を有し、アセスメントの力、支援計画の策定・評価、関係者の連携・調整、資源開発までできるような、包括的な相談支援を担える人材育成に取り組むべきである。また、ソーシャルワーカーの養成や配置等については、国家資格として現在の養成カリキュラムの見直しも含めて検討すべきである。」とされている。

## 論点に対する考え方

- こうしたことを踏まえると、社会福祉士には、養成課程において修得したソーシャルワークに関する知識・技術を統合して実践することによって、包括的な相談支援体制の構築及び維持に必要なソーシャルワーク機能を発揮するための役割を担うことが期待される。
- 包括的な相談支援体制の構築及び維持に向け、今後、特に社会福祉士が担う必要のある具体的な役割とそのためにより必要となる知識及び技術を整理すると、以下の通りと考えられる。
- ① **個人、世帯、集団及び地域のニーズの発見及びアセスメント**
  - 個人や世帯の多様なニーズや課題に対して適切な支援を提供し、活用可能な社会資源を調整するためには、解決が必要なニーズを確定し、支援の目標を設定することが重要となる。また、支援が必要な人と環境との相互作用に着目し、個人を取り巻く集団や地域のアセスメントも重要となる。
  - 個人や世帯のアセスメントは、各種サービスの利用に合わせて社会的、身体的、心理的、経済的等の側面から情報収集が行われているが、地域アセスメントや地域課題の解決に向けた取り組みは十分とは言えず、更なる取り組みが求められる。
  - そのため、社会福祉士は、自治会や住民の身近な地域における住民同士の関係性や地域活動への参加状況、集合住宅や新興住宅地など住まいの状況と生活問題との関係、医療・保健・福祉等の機関、社会資源、人口動態等について把握し、その地域において解決すべき地域課題の内容や優先度を明らかにする役割が求められる。

## 論点に対する考え方

- このような役割を果たすため、社会福祉士には、他の専門職と協働し、地域特性、社会資源、人口動態等を把握するとともに、インタビュー調査法等によって地域住民の生活課題やニーズのありのままの状況を質的に把握し、質問紙調査法等によって地域住民やサービス利用者のニーズを量的に把握するための知識と技術を統合し実践する能力が必要となる。
- また、地域には、自分から支援を求めることができない人、自分から相談に来ることができない人、社会資源やサービスの存在を知らない人、社会的に孤立した状態にある人などが存在している。
- そのため、社会福祉士は、相談者が支援を求めてくるのを待つのではなく、他の専門職と協働して積極的に潜在的なニーズや地域課題を発見する役割を果たすことが求められる。
- このような役割を果たすため、社会福祉士には、情報を得やすい環境整備を行い、地域アセスメントや調査結果並びに関係者からの情報提供を踏まえてアウトリーチの対象や方法を決定し、支援対象者のアセスメントを改めて実施し、具体的なサービスや社会資源の利用につながるための知識と技術を統合し実践する能力が必要となるのではないかと。

## 論点に対する考え方

### ② 分野横断的な社会資源の調整及び支援体制・地域づくり

- 地域には公私の様々な社会資源が存在しており、それぞれ求められる役割を果たしている。一方で、個人や世帯及び地域のニーズや課題は複合的であり、高齢、障害、子どもといった福祉関係だけではなく、多岐にわたる分野の公私の社会資源の業務実態や役割を踏まえた協働体制を構築する必要がある。
- そのため、社会福祉士は、他の専門職と協働して分野横断的な社会資源の業務内容等の実施状況を把握し、ニーズに対して適切な社会資源をつなぐ役割を果たすことが求められる。
- このような役割を果たすため、社会福祉士には、他の専門職と協働し、福祉分野だけではなく、多岐にわたる分野の公私の社会資源の業務実態や強みを把握して支援が必要な人や解決すべき地域課題に対して適切な社会資源であるかを見極め、協力を得るための交渉を行い、支援が必要な人やニーズと社会資源との仲介（コーディネート）や調整（マネジメント）を行うための知識と技術を統合し実践する能力が必要となるのではないかと。

- ソーシャルワークには様々な機能があり、地域共生社会の実現に資する「包括的な相談支援体制の構築」や「住民が主体的に地域課題を把握して解決を試みる体制づくり」を推進するにあたっては、こうした機能の発揮がますます期待される。

## 地域共生社会の実現

制度が対象としない生活課題への対応や複合的な課題を抱える世帯への対応等、多様化・複雑化するニーズへの対応や、全ての地域住民が地域、暮らし、生きがいを共に創り、高め合うことができる社会

### 地域共生社会の実現に必要な体制の構築

包括的な相談支援体制の構築

住民主体の地域課題解決体制

## ソーシャルワークの機能を発揮することによる体制づくりの推進

- 支援が必要な個人や家族の発見
- 地域全体の課題の発見
- 相談者の社会的・心理的・身体的・経済的・文化的側面のアセスメント
- 個人と世帯全体を取り巻く集団や地域のアセスメント
- 問題解決やニーズの充足、社会資源につなぐための仲介・調整
- 個人への支援を中心とした分野横断的な支援体制・地域づくり
- 新たな社会資源の開発や施策の改善に向けた提案
- 地域アセスメント及び評価
- 地域全体の課題を解決するための業種横断的な社会資源との関係形成・地域づくり
- 情報や意識の共有化
- 団体や組織等の組織化並びに機能や役割等の調整
- 相談者の権利擁護や意思の尊重にかかる支援方法等の整備
- 人材の育成に向けた意識の醸成

- 地域社会の一員であるということの意識化と実践化
- 地域特性、社会資源、地域住民の意識等の把握
- 福祉課題に対する関心や問題意識の醸成、理解促進、課題の普遍化
- 地域住民のエンパワメント
- 住民主体の地域課題の解決体制の構築・運営にかかる助言・支援
- 担い手としての意識の醸成と機会の創出
- 住民主体の地域課題の解決体制を構成する地域住民と団体等との連絡・調整
- 地域住民と社会資源との関係形成
- 新たな社会資源を開発するための提案
- 包括的な相談支援体制と住民主体の地域課題解決体制との関係性や役割等に関する理解促進